

第14回 KYOのあけぼのフェスティバル2002

「私が輝く あなたが輝く 京都が輝く」

平成14年10月12日(土)・13日(日)



- オープニングは、京都府立加悦谷高等学校合唱部のコーラスで、若やいだ力強い幕開けになりました。
- 続いて行われた、山田啓二京都府知事と、太田房江大阪府知事の対談は、立ち見が出た程の盛況で、和やかな中にも、聞き応えのある内容でした。
- その他、男女共同参画社会づくりのための、条例制定に向けてのフォーラム「わたしたちがつくる私たちの条例」や、第3回世界水フォーラム協賛、井手慎司先生の講演「水は、いのち」と、グループによる実践発表など、時を得た内容で、充実した2日間でした。
- 本年度、「海外研修KYOのあけぼの会」は昨年に引き続き、ワークショップで「IT体験パートⅡ」として、パソコンを使い名刺作りにチャレンジし、参加者全員が、それぞれ、個性豊かな名刺を作り、嬉しいおみやげが出来ました。

私にも、こんな名刺が作れました



参加者の感想

■ IT体験 パートⅡに参加して 福島 イツオ

10月13日第14回あけぼのフェスティバルのワークショップは、参加したい内容のものばかりでした。その中でも、仕事の関係上、ワープロを使っていたが、もっと便利に活用できるパソコンにおもしろさと、使うほど驚きの発見がありますので、今回オリジナル名刺作りに参加しました。自分の知らなかった操作を教えてください、その場で印刷し、フロッピーまで持って帰れるよう準備して頂きました。京都商工会議所女性会、海外研修KYOのあけぼの会の会員様には細やかな心配りと、指導して頂いた先生には時間がない中、額に汗をかきながら一生懸命指導して頂きました事、感謝申し上げます。

帰宅しまして早速知人や友人にも差し上げとても喜んでもらいました。又、この様な企画があれば是非参加したいと思えます。

本当に有難うございました。

■ あーGではなくてJだった! 田野 照子

今年も盛りだくさんのワークショップが催され、あれもこれも参加したくなる“テーマ”。その中から知人の強い呼び込みを受け、すいてまれるように「IT体験パートⅡ」「あなたらしいオリジナルの名刺を作りませんか」に、あーいいわねーと思ひ申し込んだ。

マウスの使い方からはじまり、文字を入力しましょう!

講師の先生の声にキーボードをたたく。あーGではなくてJだった! と訂正し、次にイラストだ。一杯ありすぎてやっぱり押し花かなあと安易に選ぶ。あー大きすぎる…。何度手を挙げて助けを求めたことか。ゴシック調の字体でなんとデッカイ字!! センスはもう1つだったか…やはりパソコンは操作に慣れることから始まると思う。とっても楽しい夢中になった1時間だった。



国際交流実感

日中友好正常化30周年記念に参加して(平成14年9月20日~23日)

一瀬 裕子

日本国から1万3千人余り、京都から740人余り、そして私達各女性団体グループでの55名その一員としてこの事業に参加いたしました。両国人民の相互理解の増進と未来に目を向けての日中善隣友好関係の前進と発展の意義から国を挙げての文化観光交流事業でありました。

●1日目(西安)
兵馬俑抗博物館
京都友好訪中団交流パーティー

●2日目(北京)
中華全国婦女連合会との交流会
於人民大会堂(中国国家旅游局主催のレセプション)
後(中華世紀壇にて一万人の交流会)

●3日目(北京)
記念植樹祭
(八達嶺長城付近5000人)
万里の長城見学
京都友好訪中団夕食会

●4日目(北京)
故宮(紫禁城)見学



とりわけ私たち女性団体交流での中華全国女性団体代表のごあいさつの中で中国の女性の地位向上、男女平等を柱として、都市、特に農村女性を中心に識字、職業訓練、女性の権利、社会進出等のとりくみの問題を通し、世界の女性との交流を図ることに資するとの報告がありました。

中国大地のスケール(建物、道、人、車)の大きさそれに伴う人民大会堂へ1万3000人がすっぽり(江沢民国家主席)のもと大交流式典は度肝を抜かれると云っても過言でない会場でのレセプションやセレモニーは見事でした。

全行程は早朝より夜間迄ハードスケジュールでありましたがザクロ、モモ、ブドウは露店で買い安く美味しく、車窓より貪欲に見る急ピッチでの高度成長発展する都市、老若男女とわず活気ある生活感等、垣間見る楽しい旅でした。

友好の盃交す月夜かな 秋深し乾杯続く茅台酒 秋高し友好訪中植樹祭 万里ふ長城西に後の月

オーストラリア旅行記

武田 公子



恒例の海外旅行に、平成14年2月真夏のオーストラリアへ出かけるチャンスがありました。

パース・エアーズロック・シドニーと9日間の旅はボランティア問題、環境問題についての研修目的で一気に西から東へと横断しました。日本の22倍もの広さに1900万の人口ですから自然にゆったりとんびりとなれるでしょう。鳥もゆっくり飛んでいる印象を受けました。

■「ボランティア問題」

オーストラリアはその先進国として名を馳せている通り組織作りがしっかりしている事がすぐわかりました。一般市民は勿論の事、企業からもボランティアが派遣されており、それが特別のものではなく、国造りは自分達で創りあげていくという発想のもと、シドニーオリンピックで見られた様に、国民あげて協力体制をとり、参加する事により自己完成、自己存在感を確かめ又その為の教育が充分になされている事などを見聞いたしました。

■「環境問題」

エアーズロックリゾートホテルは水とエネルギー、自然環境を重視した建物で周囲の景観が見事に調和していました。太陽エネルギーを最大限に利用する為に、ソーラーパネルを設置し、太陽熱の直射を防ぐ構造がガラス面にも屋根にも施されていました。水資源については雨水を利用し飲料水は地下水を濾過して利用されていました。ゴミはリゾート内の土中に埋められ、ゴミ減量、リサイクルにも努めている様子がわかりました。

最後に今回の旅行中一番感銘を受けたエアーズロックを訪れた様子を記します。

■「エアーズロックを訪ねて共生社会を学んだ旅」

早朝五時の起床で眠気まなこの私でしたが次第に白み行く砂漠のむこう、黒い物体が出現「これぞエアーズロック!」先を急いでバスを降りロープの前に陣取り、日の出と共に多彩に変化して行くロックの神秘的な容貌に、瞬きもせず見つめ入りました。

「ロックは六億年前には、水面下に没していたが、陸地の中央部がせり上がって来て、大きな山脈を作り出した。この山脈に雨水の力が加わり、重い岩を動かし、軽い砂を流したあと浸食された岩石群が寄り集まり、何百万年という長い年月に浸食作用を経て、現在の様な地表に固い一枚岩を残す姿になった。現在のロックは先端のみであって、地下には何倍もの岩が横たわっている。雨が降ると岩穴から湧き出て水が落ち、冬眠の穴蛙に水を施したあと、砂地へと吸い込まれていく。他にも爬虫類や哺乳動物が沢山生存していて、母なる大地の恵みは、途方もなく大きい。」これらのガイドの話聞き、自然の驚異に目を見はりながら、谷間を歩き続けました。



先住民アボリジニの人々が、自然の営みに対して敬虔な気持ち、畏敬の念を忘れず、自然との共生をしっかりと守り続けている姿に接して、今文明社会の進み過ぎた暮らしの中にいる我々は、素朴に生きる彼等の生き方に、大いに学ばねばならないと思いました。



ボランティア Thank youカード